



第87期中間事業報告書

平成 15 年 4 月 1 日から平成 15 年 9 月 30 日まで

株主の皆さまへ



株式会社 マンダム

証券コード 4917

株主の皆さまへ



株主の皆さまには平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、創業以来「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」ことを企業理念に掲げ、「会社は生き続けることが基本」「社会に対し正直であること」「身の丈経営」という経営哲学を貫いてきました。今後もこの方針を変えることなく、全員参画経営を実践できる「人

を活かす」企業となることを目指してまいります。

当期におきましては依然として厳しい経営環境ではありましたが、着実な利益成長を果たすことができました。

過去最高の中間純利益を達成

第87期(平成16年3月期)上半期の連結売上高は、前期より0.9%減少して240億29百万円となりました。海外での事業は引き続き成長を継続しましたが、国内では生活者のカラートレンドの変化によるヘアカラー使用頻度が減少し「ギャツピー」ブランドも伸び悩みました。経常利益は前期より7.8%増加して39億

目次

株主の皆さまへ	1
社長インタビュー	3
財務ハイライト[連結]	5
財務ハイライト[単体]	6
財務諸表[連結]	7
財務諸表[単体]	9
連結会社の状況・事業系統図	11
第86期事業報告書アンケート結果	12
株式の状況	13
会社概要	14

78百万円となりました。これは主に製造原価の削減が計画以上に進展したことと営業外収支の改善によるものです。中間純利益は前期より7.2%増加して20億24百万円と過去最高益を記録するとともに、半期ベースで初めて20億円台を達成することができました。また、当期の中間配当金は5円増配の1株当たり25円といたしましたことをご報告させていただきます。

海外(アジア)事業の業績が大きく伸長

国内における売上高は、市場競争の激化・販売価格低下・冷夏の影響を受け、前期より3.4%減少して190億40百万円となりました。マンダム(単体)においては「ルシード エル」が前年同期比2桁の増収を確保しましたが、ヘアカラー剤と夏シーズン品の減額を余儀なくされた「ギャツビー」が伸び悩みました。営業利益は、マンダム(単体)の製造コスト切り下げによる採算性改善が寄与したものの国内子会社事業停滞により前年より5.4%減少して31億5百万円となりました。

海外(アジア)における売上高は、49億88百万円で前年同期比10.3%の増収となりました。インドネシアの連結子会社(PT MANDOM INDONESIA Tbk)をはじめとする連結対象子会社が、積極的なマーケティング活動を各国で行ったことで概ね増収基調を維持することができました。この結果、マンダムグループ全体における海外(アジア)の売上構成は20.8%を占め、営業利益は前年より29.0%増加して9億75百万円となりました。

通期の見通し

国内の化粧品業界は、下期も依然として厳しい環境が予想されます。また、アジア経済は米国依存の不透明な状況が続くと思われませんが、化粧品市場は成長が維持されるものと予想しています。

このような状況のもと、重点ブランド・カテゴリに経営資源を集中して積極的な新製品投入・マーケティング活動を行うことにより、前年水準以上の売上を確保する計画です。

特に、アジアにおいてコアブランドの「ギャツビー」の展開を強化育成することにより、停滞気味の国内事業は補える見込みです。また、上期において採算率がさらに改善され収益構造の安定化により、業績変動リスクを軽減できる体制が確立しつつあります。

以上により、当期の連結売上高は458億円、営業利益66億70百万円、経常利益64億円、当期純利益33億円を見込んでいます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長(代表取締役) 西村 元延

社長インタビュー

Q1. ヘアカラー市場の状況について聞かせてください。

業界全体の中で、ヘアカラーはこの十数年間成長を維持してきた数少ないカテゴリーですが、平成15年に入ってからヘアカラー市場は若干縮小傾向が見られるようになりました。経済産業省化粧品月報によれば、平成15年1月から8月の「染毛料」の販売個数は前年同期比で1.1%の減少、金額は7.3%の減少となっています。しかし、この状況はヘアカラー使用率が減少したのではなく、カラートレンドが「落ち着いたブラウン系」主流となったことによる商品使用頻度の低下によるものと判断しております。したがって、ヘアカラーの市場性についてはまだ有望市場であると確信しております。



Q2. ヘアカラー製品の商品ポートフォリオを教えてください。



男性用の「ギャツビー ヘアカラー シリーズ」に加えて、平成15年2月、女性用「ルシードエル ヘアカラー シリーズ」を投入しました。「色」だけでなく「質感」も満足できる商品です。9月には、市場競争力を高めるためさらに新価格を設定し、パッケージもマイナーチェンジするリニューアルを行いました。また、「ルシード」ブランドから、男性用白髪染めの「ナチュラルカラー シリーズ」を発売しました。自然な発色と簡単・スピーディな仕上がりが特徴です。これらによって、男性用「おしゃれ染め」「白髪染め」、女性用「おしゃれ染め」の各カテゴリーをカバーしたことになり、その結果、当社では本中間期のヘアカラー全体の売上高は前年同期比で12.0%増加しました。

Q3. ギャツビーブランドの海外における展開を教えてください。

平成17年3月期を最終年度とする第7次中期経営計画は、「成長性重視」を最大のテーマにしています。これは、「ギャツビー」「ルシードエル」「ヘアカラー」の3つの事業単位の強化とアジアへの事業展開を重視するものです。これに基づき、マンダムグループとして「ギャツビー」ブランドを育成するために、海外へのプロモーション活動を強化しました。韓国ではヘアワックスのサンプリングおよび雑誌広告をうち、タイでは「GATSBY BE COOL」と題



し2日間で2万人を動員するデオドラントを中心としたイベントを実施、シンガポールでは世界のブランドがひしめく「カルフルビューティーフェア」に参加して売上数量・金額ともにスタイリング剤No.1の実績を上げ、インドネシアではヘアワックスの広告を集中投下し反響を呼びました。また香港でオンエアされているシェーピングシリーズのTV-CMが2002年度香港TV-CM大賞を受賞するなど、海外でのうれしい話題もありました。

Q4. 株主総会議決権行使の状況について聞かせてください。

商法の改正により、平成14年4月からインターネットを利用した議決権の行使が可能になりました。当社では、平成15年の第86回定時株主総会からインターネットによる議決権行使を導入しました。その結果、総株主数の46.5%に該当する5,010名が議決権を行使し、このうちインターネットを活用された株主さまは527名、利用率は10.5%でした。こうして、さらに多くの方が議決権行使できる環境を整えました。

Q5. 取締役の任期を短縮した理由を教えてください。

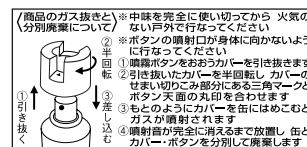
平成15年の第86回定時株主総会において、取締役の任期を2年から1年に変更することが決議されました。これは事業年度における取締役の経営責任を明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体制を確立することが目的です。

当社はこれまでもコーポレート・ガバナンス強化に努めており、早くから社外監査役・社外取締役の招聘を推進し、執行役員制度も平成13年に導入しております。

Q6. 自己株式の取得枠を決議した理由を教えてください。

平成15年6月25日に開催された第86回定時株主総会で取得枠が決議されました。株価の著しい下落や他社からの買収行為によるTOBに対する防衛的な対応措置を機動的に行えるようにこうした取得枠を設けました。取得できる株式の総数は上限で240万株、また、取得できる株式の価額は上限で60億円です。

Q7. 環境問題への取り組みについて聞かせてください。



2003年春の新製品「ギャツビーデオドラントスプレー」において使用後のガス抜きが簡単にできる新容器を採用。

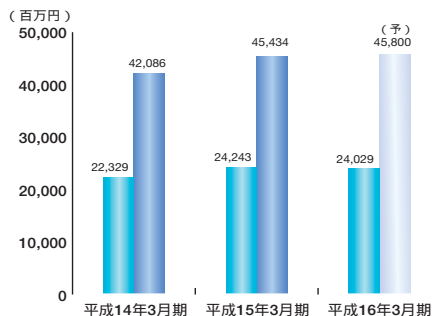
当社は従来からも、商品づくりにおいては「Reduce=減量」「Reuse=再使用」「Recycle=再利用」の3R設計を実践し、環境負荷低減に配慮した商品づくりを目指しています。平成15年も容器構造の変更や開発により、プラスチック使用量の低減や易分別設計に努めました。また、福崎工場においてはゼロエミッションのシナリオに沿って「廃棄物ゼロ化」に取り組んでおり、再資源化率の向上を推進しています。なお、2003年環境報告書は9月30日にホームページで公開しました。

<http://www.mandom.co.jp/eco/>

■ 財務ハイライト [連結]

■ 中間期 ■ 通期

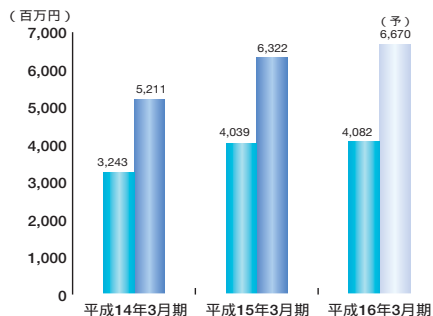
売上高



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	6.2	8.6	0.9
増減率(通期)	5.1	8.0	(予)0.8

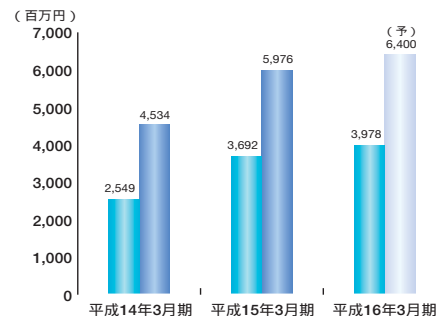
営業利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	10.9	24.5	1.1
増減率(通期)	2.6	21.3	(予)5.5

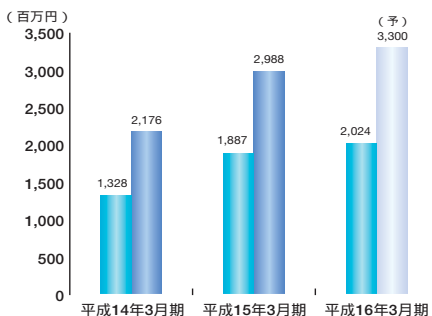
経常利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	14.6	44.8	7.8
増減率(通期)	14.3	31.8	(予)7.1

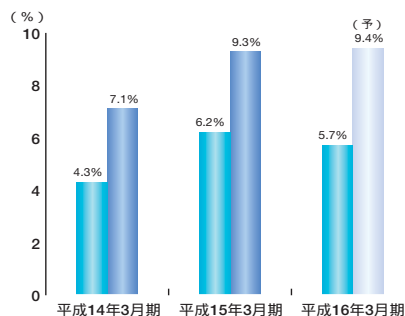
当期純利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	21.1	42.1	7.2
増減率(通期)	7.5	37.3	(予)10.4

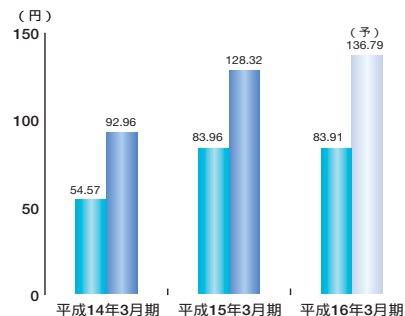
株主資本当期純利益率(ROE)



(ポイント)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	0.9	1.9	0.5
増減率(通期)	0.9	2.2	(予)0.1

1株当たり当期純利益(EPS)



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	23.4	53.9	0.1
増減率(通期)	13.9	38.0	(予)6.6

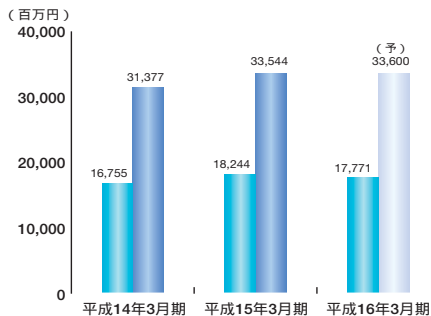
(注) ROE = 当期純利益 / { 期首資本の部合計(新株式払込金を除く) + 期末資本の部合計(新株式払込金を除く) } / 2

EPS = 当期純利益 / 期中平均株式数

財務ハイライト[単体]

■ 中間期 ■ 通期

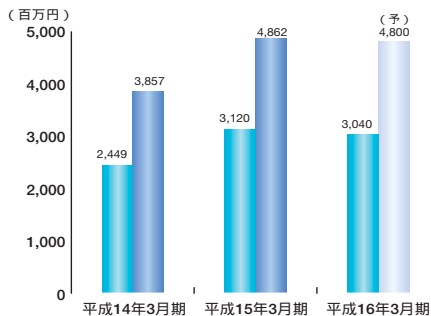
売上高



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	4.6	8.9	2.5
増減率(通期)	4.4	6.9	(予) 0.2

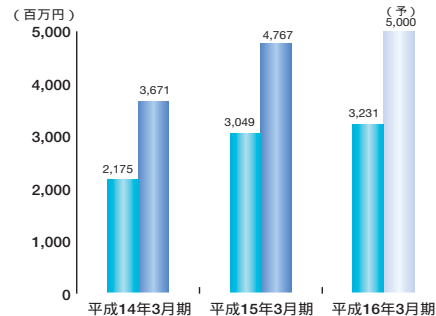
営業利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	25.5	27.4	2.6
増減率(通期)	10.8	26.0	(予) 1.3

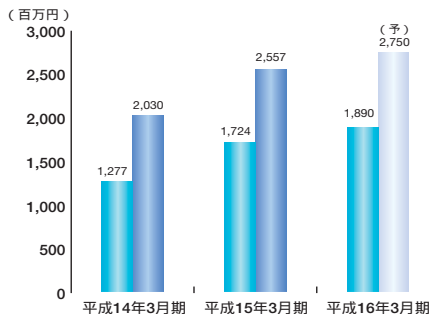
経常利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	21.6	40.2	6.0
増減率(通期)	22.9	29.9	(予) 4.9

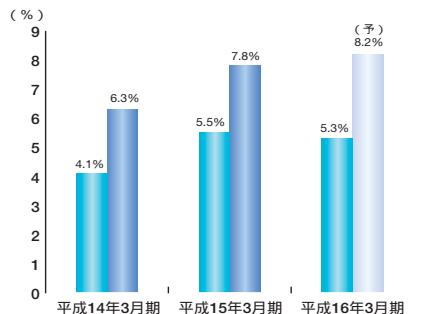
当期純利益



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	7.3	35.0	9.7
増減率(通期)	3.0	25.9	(予) 7.5

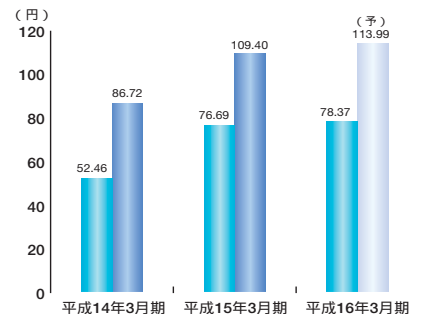
株主資本当期純利益率(ROE)



(ポイント)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	0.6	1.4	0.2
増減率(通期)	0.3	1.5	(予) 0.4

1株当たり当期純利益(EPS)



(%)

	H14/3	H15/3	H16/3
増減率(中間期)	9.4	46.2	2.2
増減率(通期)	9.2	26.2	(予) 4.2

■ 財務諸表 [連結]

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 平成15年 9月30日現在	前中間期 平成14年 9月30日現在	前期 平成15年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	24,393	19,778	22,442
現金及び預金	5,434	7,124	5,540
受取手形及び売掛金	5,654	4,998	5,479
① 有価証券	7,000	1,190	5,199
たな卸資産	5,145	4,984	5,047
繰延税金資産	524	475	500
その他	692	1,066	744
貸倒引当金	58	60	68
固定資産	21,478	21,204	21,425
有形固定資産	13,434	13,785	13,345
建物及び構築物	8,410	8,817	8,523
② 機械装置	2,428	2,372	2,349
土地	1,580	1,819	1,567
その他	1,014	776	904
無形固定資産	449	503	496
投資その他の資産	7,595	6,915	7,583
資産合計	45,872	40,982	43,868

POINT①

マンダム単体における手元流動性の運用により増加しております。

POINT②

主としてマンダムインドネシアの生産設備を増強したことにより増加しております。

(単位:百万円)

科目	期別 当中間期 平成15年 9月30日現在	前中間期 平成14年 9月30日現在	前期 平成15年 3月31日現在
負債の部			
流動負債	6,157	6,701	5,966
③ 支払手形及び買掛金	1,544	1,493	1,070
短期借入金	-	492	-
その他	4,613	4,716	4,895
固定負債	1,626	1,694	1,574
繰延税金負債	16	16	19
退職給付引当金	468	572	376
その他	1,140	1,105	1,178
負債合計	7,784	8,396	7,540
少数株主持分	1,841	1,536	1,613
資本の部			
資本金	11,394	9,753	11,394
資本剰余金	11,235	9,595	11,235
利益剰余金	15,824	13,968	14,619
その他有価証券評価差額金	150	211	20
為替換算調整勘定	2,338	2,470	2,495
自己株式	20	8	19
資本合計	36,246	31,049	34,714
負債、少数株主持分及び資本合計	45,872	40,982	43,868

POINT③

主としてマンダム単体における支払手形(夏シーズン・秋リニューアル資材の仕入れに伴う手形決済)が増加しました。

中間損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期	前中間期	前 期
		平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
4 売 上 高		24,029	24,243	45,434
5 ● 売 上 原 価		9,772	10,145	18,844
● 売 上 総 利 益		14,257	14,097	26,590
販売費及び一般管理費		10,175	10,058	20,267
営 業 利 益		4,082	4,039	6,322
営 業 外 収 益		252	322	550
6 営 業 外 費 用		356	668	896
経 常 利 益		3,978	3,692	5,976
特 別 利 益		25	691	774
特 別 損 失		24	764	1,014
税金等調整前中間(当期)純利益		3,979	3,620	5,736
法人税、住民税及び事業税		1,720	1,697	2,725
法人税等調整額		3	155	280
少数株主利益		230	191	303
中間(当期)純利益		2,024	1,887	2,988

POINT 4

海外事業は、各国のマーケティング活動が効を奏し2桁増収を達成しましたが、市場競争の激化・冷夏などの影響を受けた国内事業の伸び悩みを吸収できませんでした。

POINT 5

マングムおよびマングムインドネシアにおける製造原価低減により採算率が向上しました。

POINT 6

不良資産償却および金利負担が減少しました。

中間剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期	前中間期	前 期
		平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
資 本 剰 余 金 の 部				
資本剰余金期首残高		11,235	-	-
資本準備金期首残高		-	9,595	9,595
資本剰余金増加高		-	-	1,640
増資による新株の発行		-	-	1,640
資本剰余金期末残高		11,235	9,595	11,235
利 益 剰 余 金 の 部				
利益剰余金期首残高		14,619	-	-
連結剰余金期首残高		-	12,608	12,608
利益剰余金増加高		2,024	1,887	2,988
中間(当期)純利益		2,024	1,887	2,988
利益剰余金減少高		819	527	976
配 当 金		723	449	899
役 員 賞 与		95	77	77
自己株式処分差損		-	-	-
利益剰余金期末残高		15,824	13,968	14,619

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期	前中間期	前 期
		平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,176	3,892	5,466
投資活動によるキャッシュ・フロー		1,118	891	3,194
財務活動によるキャッシュ・フロー		861	497	1,845
現金及び現金同等物に係る換算差額		7	7	14
現金及び現金同等物の増加(減少)額		1,203	2,496	4,103
現金及び現金同等物の期首残高		8,659	4,555	4,555
現金及び現金同等物の期末残高		9,862	7,052	8,659

■ 財務諸表 [単体]

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別 当中間期 平成15年 9月30日現在	前中間期 平成14年 9月30日現在	前 期 平成15年 3月31日現在
資 産 の 部			
流 動 資 産	18,985	14,411	17,440
現金及び預金	5,248	7,008	5,127
受取手形	31	33	16
売掛金	3,641	3,153	3,986
① 有価証券	7,000	1,190	5,199
たな卸資産	2,169	1,934	2,141
繰延税金資産	391	357	365
その他	543	770	645
貸倒引当金	42	36	42
固 定 資 産	23,436	23,548	23,773
有形固定資産	10,574	11,278	10,849
建物	6,953	7,387	7,146
機械装置	1,424	1,376	1,421
② 土地	1,427	1,675	1,427
その他	769	839	854
無形固定資産	434	486	481
投資その他の資産	12,427	11,783	12,442
資 産 合 計	42,422	37,960	41,213

POINT①

期間利益による手元流動性の運用により増加しております。

POINT②

前年下期に土地評価損を計上しております。

(単位:百万円)

科 目	期 別 当中間期 平成15年 9月30日現在	前中間期 平成14年 9月30日現在	前 期 平成15年 3月31日現在
負 債 の 部			
流 動 負 債	4,644	4,794	4,733
③ 支払手形	627	563	320
買掛金	520	495	545
その他	3,496	3,734	3,867
固 定 負 債	1,268	1,324	1,215
退職給付引当金	324	417	235
④ 役員退職慰労引当金	564	651	680
その他	378	255	299
負 債 合 計	5,912	6,118	5,948

資 本 の 部

資 本 金	11,394	9,753	11,394
資 本 剰 余 金	11,235	9,595	11,235
利 益 剰 余 金	13,750	12,291	12,675
その他有価証券評価差額金	149	210	20
自 己 株 式	20	8	19
資 本 合 計	36,509	31,841	35,264
負 債 及 び 資 本 合 計	42,422	37,960	41,213

POINT③

夏シーズン品・秋リニューアル資材の仕入れに伴う手形決済が増加しました。

POINT④

役員の退任により引当金の取崩しが発生しました。

中間損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
5 売上高		17,771	18,244	33,544
6 売上原価		7,148	7,662	13,857
6 売上総利益		10,622	10,582	19,686
販売費及び一般管理費		7,582	7,462	14,823
営業利益		3,040	3,120	4,862
7 営業外収益		470	515	741
7 営業外費用		279	585	835
経常利益		3,231	3,049	4,767
特別利益		16	176	250
特別損失		21	286	541
税引前中間(当期)純利益		3,226	2,940	4,476
法人税、住民税及び事業税		1,320	1,377	2,171
法人税等調整額		15	161	253
中間(当期)純利益		1,890	1,724	2,557
前期繰越利益		605	453	453
中間繰越当額		-	-	449
自己株式処分差損		-	-	-
中間(当期)未処分利益		2,496	2,177	2,561

POINT 5

「ルシード エル」の2桁増収もヘアカラー削減減の影響を受けた「ギャツピー」の伸び悩みを吸収できませんでした。

POINT 6

海外生産移管の進展、原材料費の低下などにより、前期に引き続き採算率を改善しております。

POINT 7

たな卸資産廃棄の大幅減少などにより、営業外収支は黒字転換しました。

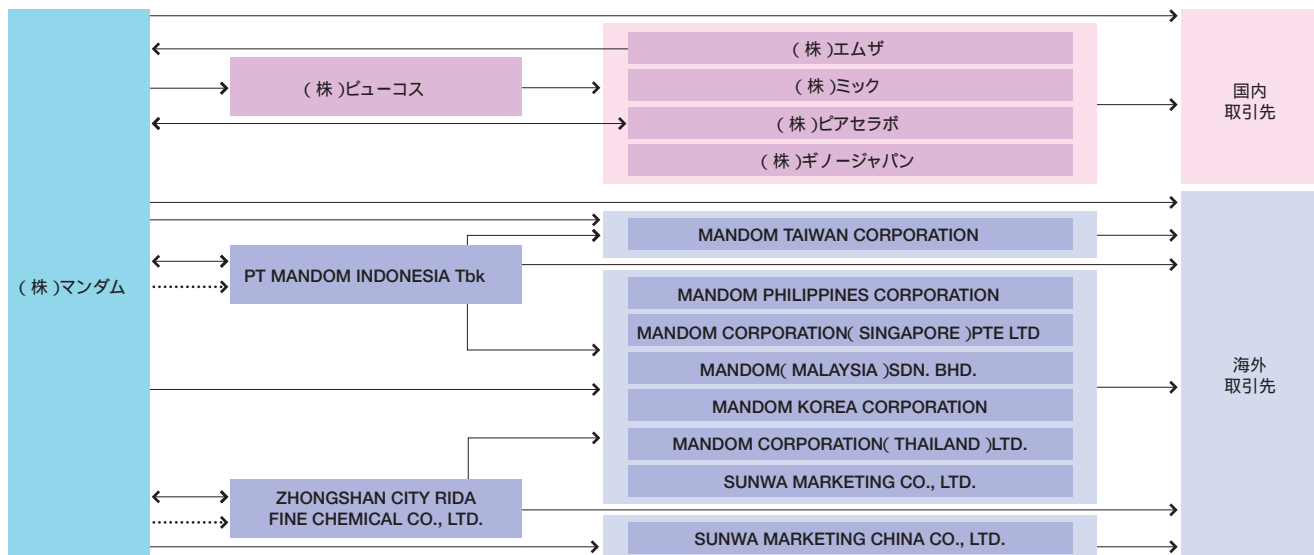


連結会社の状況

<p>株式会社ミック</p> <p>① 300 ② ヨーロッパの高級スキンケア製品を中心にカウンセリング販売 ③ 100.0</p>	<p>株式会社ピアセラボ</p> <p>① 200 ② 美容院・エステティックサロンの業務用およびホームケア製品の販売 ③ 100.0</p>	<p>株式会社エムザ</p> <p>① 450 ② メイクアップ化粧品を中心にバラエティショップなどで販売 ③ 100.0</p>
<p>株式会社ギノージャパン</p> <p>① 100 ② フランスのエステティックブランド「ギノー」の販売 ③ 100.0</p>	<p>MANDOM PHILIPPINES CORPORATION [フィリピン] ① 30百万フィリピンペソ ② フィリピンにおける化粧品の販売 ③ 100.0</p>	<p>MANDOM CORPORATION (SINGAPORE) PTE LTD [シンガポール] ① 600千シンガポールドル ② シンガポールにおける化粧品の販売 ③ 100.0</p>
<p>MANDOM TAIWAN CORPORATION [台湾] ① 50百万ニュー台湾ドル ② 台湾における化粧品の販売 ③ 100.0</p>	<p>MANDOM (MALAYSIA) SDN.BHD. [マレーシア] ① 10百万リンギット ② マレーシアにおける化粧品の販売 ③ 97.2</p>	<p>PT MANDOM INDONESIA Tbk [インドネシア] ① 78,000百万ルピア ② インドネシアにおける化粧品の製造販売と、マンダムグループ各社の化粧品の製造を担う拠点のひとつ ③ 60.1</p>

事業系統図

連結会社



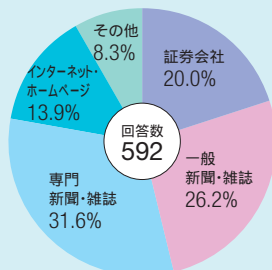
製品・商品 —————>
ロイヤリティ ……………>

第86期事業報告書アンケート結果

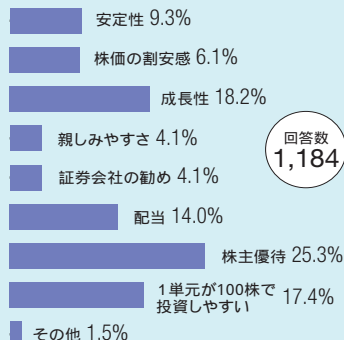
前期事業報告書において実施いたしました株主の皆さまへのアンケート集計結果をご報告させていただきます。

なお、「3. 事業報告書の評価は？」以外は複数回答となっております。

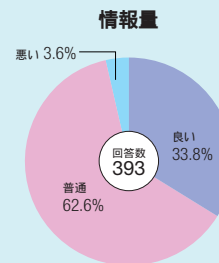
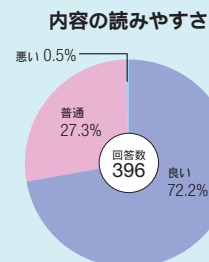
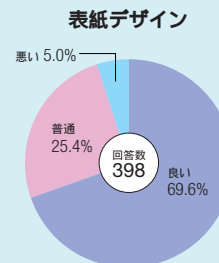
1. 株式を購入される際の情報は、主にどこから入手されますか？



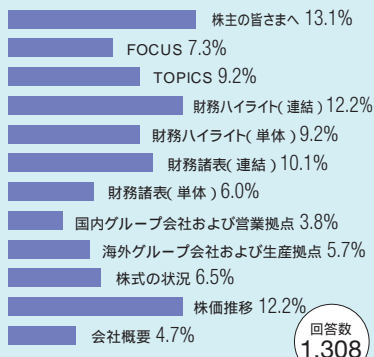
2. 当社の株式を購入された理由は？



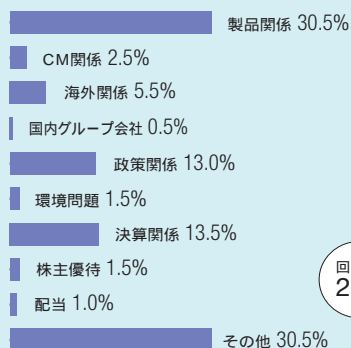
3. 事業報告書の評価は？



4. 今回の事業報告書で興味を持たれたテーマは？



5. 今後事業報告書に望む情報は？



● アンケートご協力のお礼

さまざまな角度からたくさんのご回答をいただき、ありがとうございました。
貴重なご意見として承るとともに、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

株式の状況

株主メモ

決算期日 毎年3月31日

定時株主総会 毎年6月

権利確定日 利益配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

1単元の株式の数 100株

名義書換代理人 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 東京都府中市日鋼町1番10号〒183-8701
住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417
その他のご照会 ☎0120-176-417

同取次所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

公告掲載新聞 日本経済新聞に掲載いたします。ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、<http://www.mandom.co.jp> において提供しております。

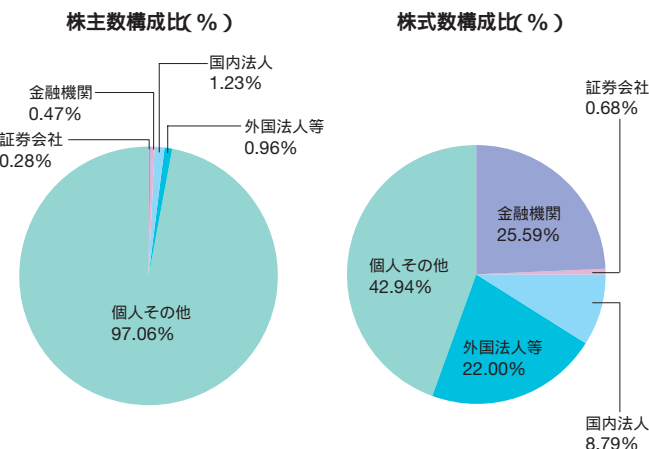
株主優待 毎年3月31日現在の100株以上ご所有の株主に対し、5,000円相当の当社製品を6月初旬に贈呈します。

株式の状況(平成15年9月30日現在)

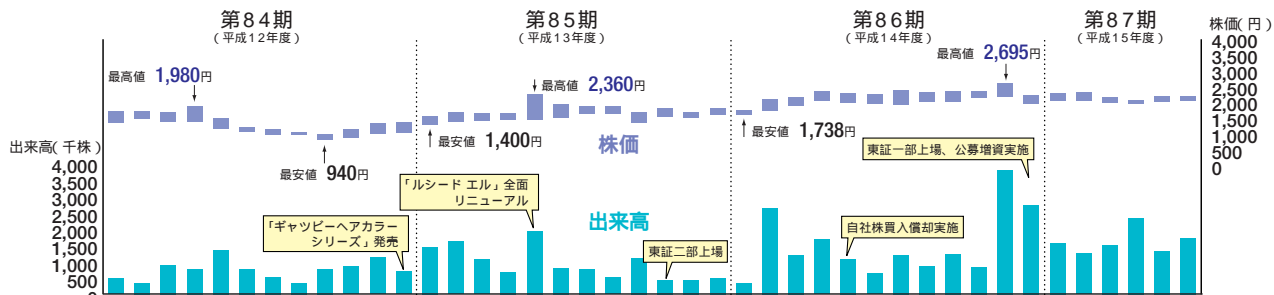
発行済株式の総数 24,134,606株

株主数 11,480名

株式分布状況



株価推移・配当推移



	84期(平成12年度)		85期(平成13年度)		86期(平成14年度)		87期(平成15年度)	
株主配当(通期)	34		40		50		50(予定)	
中間配当金	17		20		20		25	
利益配当金		17		20		30		25

会社概要

会社概要(平成15年9月30日現在)

社名	株式会社 マンダム
本社	大阪市中央区十二軒町5番12号
設立	昭和2年12月23日
資本金	11,394,817,459円
従業員数	446名
事業内容	化粧品、香水の製造および販売 医薬部外品の製造および販売
HPアドレス	http://www.mandom.co.jp

大株主(平成15年9月30日現在)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,466	6.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,053	4.36
西村 彦次	1,044	4.33
財団法人 西村留学生奨学財団	1,000	4.14
西村 輝久	821	3.40
西村 元延	760	3.15
ザバンク オブ ニューヨークトリートリー ジャスデック アカウント	750	3.11
マンダム従業員持株会	643	2.67
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	544	2.26
日本生命保険相互会社(特別勘定年金口)	427	1.77

(注)所有株式数の比率は発行済株式の総数をもとに算出しております。

株式会社マンダムはISO14001(福崎工場)と
ISO9001(本社・福崎工場)を認証取得しております。

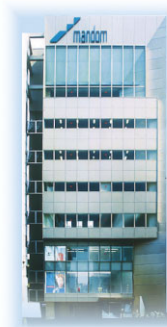
役員(平成15年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)	西村 元延
取締役副社長(代表取締役)	亀井 浩
常務取締役	西海 義勝
常務取締役	佐治 健二
常務取締役	山田 憲治
常務取締役	野崎 浩治
常務取締役	桃田 雅好
取締役	中口 修 ¹
取締役	大下 俊一 ¹
取締役	樋口 俊人 ¹
取締役	後藤 光男 ²
常勤監査役	谷口 義和
常勤監査役	松山 金豊
監査役	小林 貴好 ³
監査役	小寺 一矢 ³

- 1 執行役員を兼任しております。また、この3名以外に、4名の執行役員がおります。
- 2 社外取締役です。
- 3 社外監査役です。なお、小林貴好は平成15年10月28日逝去により監査役を退任いたしました。



本社ビル
〒540-8530
大阪市中央区十二軒町5-12



マンダムグループ
東京日本橋ビル
〒103-0027
東京都中央区日本橋2-16-6



東京ビル
〒275-0023
千葉県習志野市芝園2-6-3



お問い合わせ先

株式会社マングラム 広報IR室

〒540-8530 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号

TEL: 06-6767-5020 FAX: 06-6767-5043

アニュアルレポート2003、事業報告書、中間決算短信などの資料は、ホームページにも掲載されております。



この冊子は環境にやさしい大豆インキを
使用しています



古紙配合率100%再生紙を使用しています